

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 6 部門第 3 区分
【発行日】平成27年5月7日(2015.5.7)

【公開番号】特開2012-185799(P2012-185799A)
【公開日】平成24年9月27日(2012.9.27)
【年通号数】公開・登録公報2012-039
【出願番号】特願2011-266247(P2011-266247)
【国際特許分類】

G 0 6 F 13/00 (2006.01)

【F I】

G 0 6 F 13/00 5 4 0 R

【手続補正書】

【提出日】平成27年3月24日(2015.3.24)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

外部装置と通信するプロセスが動作する情報処理装置であって、
前記プロセスを識別する識別情報を取得する第 1 取得手段と、
前記プロセスが前記外部装置と通信するために使用する通信ポートの特性を示すポート
情報を取得する第 2 取得手段と、

前記ポート情報と、前記識別情報とを対応付けて記憶手段に記憶させる制御手段と
を備えており、

前記第 2 取得手段は、前記プロセスが前記通信ポートを使用するために用いるドライバ
・ソフトウェアの入力または出力をフィルタリングすることにより、前記プロセスと前記
通信ポートにアクセスするために使用するアプリケーション・プログラミング・インタフ
ェースとの間の通信を監視することにより、或いは、ポート監視インタフェースにより、
前記ポート情報を取得することを特徴とする情報処理装置。

【請求項 2】

前記プロセスと前記外部装置との間で通信される通信データのログ情報を記録する記録
手段を更に備え、

前記記録手段は、前記記憶手段に記憶された前記ポート情報及び前記識別情報に関連づ
けて、前記ログ情報を記録することを特徴とする請求項 1 に記載の情報処理装置。

【請求項 3】

前記情報処理装置のユーザを識別する情報を入力する入力手段を更に備え、

前記記録手段は、前記ユーザを識別する情報に関連づけて前記ログ情報を記録するこ
とを特徴とする請求項 2 に記載の情報処理装置。

【請求項 4】

前記記録手段が記録したログ情報を予め定められた管理装置へ送信する送信手段を更に
備えることを特徴とする請求項 2 又は 3 に記載の情報処理装置。

【請求項 5】

前記情報処理装置のユーザを識別する情報を入力する入力手段と、

前記ユーザを識別する情報と、前記プロセスを識別する識別情報との少なくともいづれ
かに基づいて、該プロセスが予め定められた外部装置へアクセスすることを禁止する禁止
手段とを更に備えることを特徴とする請求項 1 から 4 のいずれか 1 項に記載の情報処理装

置。

【請求項 6】

前記情報処理装置に対してネットワークを介して他の情報処理装置から間接的にログインすることを特徴とする請求項 1 から 5 のいずれか 1 項に記載の情報処理装置。

【請求項 7】

前記情報処理装置は複数のユーザが同時に使用可能なことを特徴とする請求項 1 から 6 のいずれか 1 項に記載の情報処理装置。

【請求項 8】

前記通信ポートの特性を示すポート情報は、ポートの種類を含むことを特徴とする請求項 1 から 7 のいずれか 1 項に記載の情報処理装置。

【請求項 9】

前記第 2 取得手段は、フィルタされたファイルオブジェクト、アプリケーション・プログラミング・インタフェースの戻り値若しくは入力値、又は、ポート監視インタフェースのコールバックの情報を使用することで、前記ポート情報を取得することを特徴とする請求項 1 から 8 のいずれか 1 項に記載の情報処理装置。

【請求項 10】

外部装置と通信するプロセスが動作する情報処理装置の制御方法であって、

第 1 取得手段が、前記プロセスを識別する識別情報を取得する第 1 取得工程と、

第 2 取得手段が、前記プロセスが前記外部装置と通信するために使用する通信ポートの特性を示すポート情報を取得する第 2 取得工程と、

制御手段が、前記ポート情報と、前記識別情報とを対応付けて記憶手段に記憶させる制御工程と、
を有し、

前記第 2 取得工程では、前記プロセスが前記通信ポートを使用するために用いるドライバ・ソフトウェアの入力または出力をフィルタリングすることにより、前記プロセスと前記通信ポートにアクセスするために使用するアプリケーション・プログラミング・インタフェースとの間の通信を監視することにより、或いは、ポート監視インタフェースにより、前記ポート情報を取得することを特徴とする情報処理装置の制御方法。

【請求項 11】

前記第 2 取得工程では、フィルタされたファイルオブジェクト、アプリケーション・プログラミング・インタフェースの戻り値若しくは入力値、又は、ポート監視インタフェースのコールバックの情報を使用することで、前記ポート情報を取得することを特徴とする請求項 10 に記載の制御方法。

【請求項 12】

コンピュータ可読媒体に記憶されたコンピュータプログラムであって、コンピュータを請求項 1 から 9 のいずれか 1 項に記載の情報処理装置として機能させるためのコンピュータプログラム。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

本発明の一側面によると、外部装置と通信するプロセスが動作する情報処理装置であって、前記プロセスを識別する識別情報を取得する第 1 取得手段と、前記プロセスが前記外部装置と通信するために使用する通信ポートの特性を示すポート情報を取得する第 2 取得手段と、前記ポート情報と、前記識別情報とを対応付けて記憶手段に記憶させる制御手段とを備えており、前記第 2 取得手段は、前記プロセスが前記通信ポートを使用するために用いるドライバ・ソフトウェアの入力または出力をフィルタリングすることにより、前記プロセスと前記通信ポートにアクセスするために使用するアプリケーション・プログラミ

ング・インタフェースとの間の通信を監視することにより、或いは、ポート監視インタフェースにより、前記ポート情報を取得することを特徴とする。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

本発明の一側面によると、外部装置と通信するプロセスが動作する情報処理装置の制御方法であって、第1取得手段が、前記プロセスを識別する識別情報を取得する第1取得工程と、第2取得手段が、前記プロセスが前記外部装置と通信するために使用する通信ポートの特性を示すポート情報を取得する第2取得工程と、制御手段が、前記ポート情報と、前記識別情報とを対応付けて記憶手段に記憶させる制御工程と、を有し、前記第2取得工程では、前記プロセスが前記通信ポートを使用するために用いるドライバ・ソフトウェアの入力または出力をフィルタリングすることにより、前記プロセスと前記通信ポートにアクセスするために使用するアプリケーション・プログラミング・インタフェースとの間の通信を監視することにより、或いは、ポート監視インタフェースにより、前記ポート情報を取得することを特徴とする。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】削除

【補正の内容】